

特集 世界へ売り出せ!! 東よか干潟



シチメンソウ再生へ 官民一体

シチメンソウの紅葉の見えるを直前に控えた2018年10月中旬、シチメンソウは突然、大規模な立ち枯れに見舞われた。初めての出来事で、関係者も「がくぜんとした」という。しかし、すぐにシチメンソウを育てる会、東与賀まちづくり協議会、ボランティアガイド、佐賀市職員らが官民一体となって再生への粘り強い取り組みをスタート。翌19年は、周辺に自生するシチメンソウを移植してみたが、大部分が途中で枯れた。そこで昨年の紅葉シーズン終了後の12月からは一部のエリア(約2500㎡)で水はけを良くしたり、重機で土をかきまぜて空気を入れる土壌改良を行ったりした上で、周辺で採取した種をまいてみた。すると、順調に発芽、生育。夏場には潟土の乾燥を防ぐと散水作業を行った。10月中旬現在、草丈は30〜40cmに生長し、3年ぶりに赤く色づいている。

再生に取り組んできた佐賀市役所東与賀支所の 原口謙一郎・副グループ長 (50) の話
シチメンソウの紅葉については、例年以上に問い合わせが多い。期待の大きさを感じており、再生へ向けさらに力を尽くしたい。

東与賀町の「シチメンソウを育てる会」で今年3月まで副会長を務めていた飯田涼香さん(87)の話
育てる会は1991年に発足し、最初のころは葦の中にあつたシチメンソウを集めて移植したりしていましたが、シチメンソウのことを知る人は地元でも少なかったですね。今年はよくここまで再生してくれたと、とてもうれしく思っています。『秋が来ればシチメンソウ』と知名度も上がってきました。もっともっとシチメンソウの育成に力を入れていかなければいけないと思います。

再生に向けた試行錯誤の取り組み

 <p>移植作業 2019年 7月6日 2018年10月の立ち枯れを受けて大規模なシチメンソウの移植作業を行った。しかし、その後、大部分が枯死した=佐賀市東与賀町地先のシチメンソウ群生地</p>	 <p>土壌改良 2019年 12月12日 紅葉シーズン終了後、新たな試みとして土中改善のため重機で干潟をかくはんする作業を行った</p>
 <p>種まき 2019年 12月18日 2020年 1月21日 周辺でシチメンソウの種を採取し、種まき作業を行った。その後、発芽し、順調に生育</p>	 <p>散水作業 2020年 5月1日 潟土が乾き、潮を吹いている場所があり、4月〜5月、7月〜9月まで散水作業を繰り返した</p>

海の紅葉シチメンソウ“復活” 3年ぶりに赤く色づく

シチメンソウ
ヒユ科の1年草の塩生植物で、絶滅危惧種。葉の色がピンクから緑、そして赤色と変わるさまを七面鳥の顔色になぞらえてこの名がついた。秋になると、海岸線で赤いじゅうたんを広げたように鮮やかな紅葉色になることから「海の紅葉」とも呼ばれる。
※塩生植物 満潮時に海水に浸かる土地に生える植物



佐賀市東与賀町地先の有明海(有明海湾奥部)に位置する「東よか干潟」は、渡り鳥の重要な生息地として2015年にラムサール条約湿地に登録された。ここ2年間、立ち枯れに見舞われたシチメンソウも懸命な再生への取り組みで、3年ぶりに赤く色づいている。今月20日にはその魅力・情報の発信拠点となる、東よか干潟ビジターセンター(愛称「ひがさす」)もオープンした。さあ、世界に認められた、豊かで美しい、佐賀県の宝、「東よか干潟」を世界に売り出そう、アピールしよう!!

シチメンソウの紅葉は例年よりやや早い印象だが、何とか11月上旬ごろまでは楽しめそうとのこと。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年は佐賀インターナショナルバルーンフェスタと同時に開いていたシチメンソウまつり・ライトアップは中止するが、「ひがさす」では渡り鳥や干潟の生き物に関する旬の情報を提供したり、地元の人たちがシチメンソウの保全などに取り組んできた様子や、これまでのシチメンソウまつりの写真などをパネル展示したりする予定だ。



東よか干潟
渡り鳥の生息地としての重要性が認められ、国指定の鳥獣保護区特別保護地区の「東よか干潟」(佐賀市東与賀町、218ha)と「肥前鹿島干潟」(鹿島市、57ha)が、2015年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録された。クロツラヘラサギ、ズグロカモメなどの絶滅危惧種を含む水鳥類の、東アジア地域における重要な渡りの中継地、越冬地であり、シギ、チドリ類の渡来数は日本一を誇る。
■登録面積：218ha ■所在地：佐賀市 ■湿地のタイプ：干潟 ■登録：2015年5月28日

ラムサール条約
正式名称：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約
湿地の生態系を保全するとともに、そこから得られる恵みを人々の生活に持続的に利用すること(ワイズユース)を目的に制定された国際条約。1971年にイランのラムサールで採択された。

- #### 東よか干潟の主な特長
- 単一の干潟としては国内最大級の有明海の干潟の一部
 - 干満差は最大約6mで日本一。干潮時に広大な干潟が姿を現す
 - 渡り鳥のシギ・チドリ類の渡来数日本一
 - ムツゴロウ、ワラスボなど泥干潟特有の珍しい生き物の宝庫
 - 秋に赤く色づく塩生植物シチメンソウの国内最大級の群生地
 - 佐賀のりは販売量・販売金額ともに日本一



ラムサール条約湿地登録 218ヘクタール



東よか干潟のランドマーク
「ひがさす」オープン

子どもたちの学習に活用を



佐賀市東与賀町のシチメンソウを育てる会の石丸義弘会長（76）の話
「（ひがさすについて）東よか干潟のランドマークタワーができた。これで子どもたちが干潟について学ぶ学習環境が整った。未来に向けて、この環境を守り引き継いでもらうことが一番大切ですからね」

展望棟から360度の大パノラマ
研究・情報発信の拠点に



ひがさす



◎東よか干潟ビジターセンター（愛称：ひがさす）
所在地：佐賀市東与賀町大字田中 2757 番地 4 ※干潟よか公園西隣
規模：延べ床面積約 760㎡
構造：展示棟（木造・平屋建て）、展望棟（鉄骨造・2階建て）
事業費：5億 9,000万円
※2020年度は予算ベース
開館時間：午前9時～午後5時
休館日：月曜日（その日が祝日の場合は翌平日）、12月29日～翌年1月3日
入館料：無料 ☎：0952（37）0515

愛称「ひがさす」

ひがしよか、ひがたの「ひが」と、サスティナブル（持続可能な）の「さす」をつなげた言葉。有明海や展望棟に日が差すことをイメージしている。「さが」「さがす」の文字の意味も隠れており、「東よか干潟の生き物や魅力、佐賀市の魅力をさがしてほしい」という思いも込められている。

佐賀市東与賀町地先のラムサール条約湿地登録区域に面した「干潟よか公園」の西隣に、10月20日、観光・情報発信・研究・環境学習などの拠点となる東よか干潟ビジターセンター（愛称：ひがさす）がオープンした。整備コンセプトは「東よか干潟の自然環境を保全し、その価値や魅力を未来につなげる」。

展示棟（木造・平屋建て）と展望棟（鉄骨造・2階建て）で構成。展望棟は高さ18mのガラス張り、地上12m（2階床高）の展望スペースからは大パノラマの眺望が楽しめる。すぐ下にシチメンソウの群生、ラムサール条約湿地に登録された美しい干潟、その先に多良岳や雲仙岳が見える。屋内展望スペースには望遠鏡2台が設置され、干潟の野鳥をはっきりと見ることが出来る。展望回廊を北に回ると、佐賀平野の広大な田園風景が広がる。初夏の麦秋の風景なども楽しみだ。

シチメンソウに脚光
昭和天皇の行幸がきっかけに



シチメンソウなどを熱心にご覧になる昭和天皇のお姿を1面トップで伝える
= 1987（昭和62）年5月24日付の佐賀新聞

シチメンソウが注目を集めるようになったのは1987（昭和62）年5月23日、植物学に造詣の深かった昭和天皇が行幸されたのがきっかけだ。この日、陛下は佐賀市東与賀町地先の有明海干潟、小城市芦刈町の佐賀県有明水産試験場などを訪れた。

子を「陛下、有明海などご視察」「干潟、飽かずお眺め」と一面トップで報道。干潟でシチメンソウを熱心にご覧になる陛下の写真を大きく掲載し、「本県ご来訪では有明海の干潟とその生き物をご覧になるのを心待ちにしておられただけに、ご興味は尽きず去りがたいご様子だった」と表情まで伝

えている。この日を境にシチメンソウの価値が見直され、町のシンボルとして、地域の宝として、後世へ引き継いでいこうと町を挙げての保存活動が盛り上がりを見せ、毎年11月のシチメンソウまつり開催へとつながっていく様子を紹介している。

昭和天皇御製碑



東よか干潟に面する東与賀海岸は昭和天皇の最後の行幸地として知られる。1987（昭和62）年5月23日の訪問を記念して、堤防上の展望台に記念碑と御製碑が建てられた。

碑の歌は昭和天皇最後の歌会で、行幸されたときの有明海の様子を詠まれたもの。

御製
面白し
沖へはるかに汐ひきて
鳥も蟹も見ゆる
有明の海

上皇さま御製碑



昭和天皇御製碑の東には、上皇さまの御製碑がある。2006年に当時の天皇皇后陛下（現在のの上皇さまと上皇后美智子さま）がここ東与賀海岸で開催された第26回全国海づくり大会にご臨席された際の、放流行事の情景をお読みになったものだ。

御製
眼前に
有明海は
広がりて
今年生まれし
むつごろう
放つ



オスは片方のハサミが大きく、求愛時にそのハサミを上下に振って巣穴にメスを誘い込む。甲幅は2~4cm



有明海の干潟に生息する、佐賀のシンボリックな存在。全長は15~20cm。求愛時に大きくジャンプする

有明海特有の生き物たち



退化した目に鋭い牙が特徴。大きさは40cmほどになる。日本では有明海の泥干潟のみに生息。佐賀市のプロモーションムービーに「謎の生命体」として登場



名前の通りピョンピョン飛び跳ねて移動する。ムツゴロウに似ているが、小型でひれが小さい。全長7~10cm

清掃活動

佐賀市東与賀町地先では年間約10回の海岸清掃活動が行われている。10月11日は早朝から、佐賀南ロータリークラブ(嘉村幸彦会長)主催による清掃活動が行われ、クラブ員やシチメンソウを育てる会、東与賀まちづくり協議会、市職員ら120人が海からの漂着物などを拾い集めた。



シギの恩返し米



東よか干潟に渡来する渡り鳥「シギ」の名前を冠につけた米。ラムサール条約の「ワズユース」の考え方にに基づき、米作りを通して人と生き物や自然環境との持続的な共生を育んでいこうとの思いがある。今年も約2㍏で栽培し、約8700㍏を収穫。東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」やJF佐賀有明海直販所「まえうみ」(佐賀市光2丁目)などで販売する。シギの恩返し米プロジェクト推進協議会、電話 0952(45)1022



干潟は渡り鳥たちの5つ星ホテル シギ・チドリ類の渡来数日本一

ハマシギの群飛

全長約21cm。東よか干潟に一番多く飛来するシギ類。数千羽の群れが干潟の上を飛ぶ風景は絶景。観賞シーズンは秋~春



ツクシガモ

全長63cm。マガモより一回り大きい。白い体に首から胸まで一周する褐色の帯があり、頭は緑がかった黒色。観賞シーズンは冬



ズグロカモメ

全長約32cm。名前の由来は春(夏羽)になると頭部が黒くなることから。カニが大好き。観賞シーズンは冬



クロツラヘラサギ

全長約75cm。真っ黒の顔としゃもじのようなくちばしが特徴で、東よか干潟のシンボリックな存在。観賞シーズンは冬

環 境省の全国120カ所でのモニタリング調査で、シギ・チドリ類の渡来数日本一を誇る。水鳥の東アジアでの重要な渡りの中継地・越冬地で、絶滅が危惧されている希少な野鳥も多い。四季を通じて100種類以上の野鳥が見られる。

野鳥観察のタイミング

大潮の満潮時間の前後1~2時間
潮見表で確認を



いつ来ても近くで野鳥を観察できるとは限りません。大潮の満潮時間の前後1~2時間が見頃です。そのためにも、潮見表で確認することが必要です。潮見表は佐賀県のHP「佐賀県ラムサール条約登録湿地 干潟の生き物図鑑」に掲載されています。
http://sy.pref.saga.lg.jp/higata_ikimono/

干潟よか公園

東よか干潟に面した公園。遊具広場や草スキー、じゃぶじゃぶ池などがあり、市民憩いの広場として家族連れらでにぎわう。シェアサイクルのステーションもある。



シチメンソウまつり
ライトアップ「中止」のお知らせ

例年、10月下旬から11月上旬に開催している「シチメンソウまつり・ライトアップ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止された。シチメンソウについての問い合わせ
佐賀市東与賀支所 電話 0952(45)1021